

淡路市人権教育研究協議会 定期総会は書面表決

本年4月7日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言が出され、市や関係団体の催事が原則として中止・延期となりました。

5月21日に予定されていた定期総会が中止。

昨年度の決算報告、規約の一部改正(※別途記載)、役員承認、本年度活動計画案・事業計画案・会計収支予算について

教育実践活動の 重点目標

I市内小学校・保育園(所)認定こども園との連携を深め、子どもたちの自尊感情を育て、多様性を尊重する考え方や、社会で自立できる力をつけ、人権文化の創造をめざす実践の交流を図る。

II地域コミュニティや各種団体の特性を生かした主体的な活動を支援するとともに、人権のまちづくりを進める。

て、紙面表決となりました。

書面表決は、すべての議案について、過半数の賛成をもって可決されました。

冒頭でも触れましたが、感染防止を優先し、「じんけん市民講座」「人権を考える集い」を計画しています。

市内の集会所等を利用した「住民学習支援事業」は、感染防止を踏まえ、3密を避けて、開催していますので、計画があれば、連絡をお待ちしています。

また、淡路地区人権教育研究大会(淡路市開催予定)は、記念講演のみZoomによるオンラインと淡路市役所等パブリックビューイング会場も設け、約600名に視聴いただき、新しい講演スタイルで、「参加しやすかった」等の感想をいただきました。

役員紹介

会長 山添 繁 (二宮支部長)

副会長 上原 孝 (津名支部長)

顕谷 信雄 (東浦支部長)

栗山 靖 (岩屋支部長)

坂恵 正和 (北淡支部長)

第72回全国人権・同和教育研究大会(新潟県)は、来年度に延期となりました。

淡路市人権教育研究協議会規約の一部を改正する規約 新旧対照表

現 行	改 正 案
(委員会) 第20条 この会に次の委員会を置く。 (1) 文集委員会 (2) 人権広報委員会 (3) 研究・啓発推進委員会 (4) 学校教育代表者委員会	(委員会) 第20条 この会に次の委員会を置く。 (1) 文集委員会 (2) 広報委員会 (3) 啓発委員会 (4) 学校教育代表者委員会

国境を越えた連帯を

人権教育研究協議会会長 山添 繁

を人間の倫理の原点だと述べています。

今年度、淡路市人教では、新型コロナウイルス感染症拡大により、理事会や総会は書面表決となり、各支部の活動や啓発事業も中止が相次ぎ、ようやく広報紙「まるごとじんけん」を発行する運びとなりました。その間、新型コロナウイルスに感染した人たちは、病気の苦しみと同様に、偏見や差別の顕在化により、社会的制裁を受けるといふ恐怖を体験しました。神戸新聞のある論説委員の記事には、「親からお盆の帰省はやめてほしい。コロナに罹ることも怖いけど、近所の人の目のほうがもっと怖いと言われた」とありました。

人間の倫理の原点は、「最も弱い者を救済する」ということにあります。ジョージア(2015年「グルジア」から国名変更)で見えられた180万年前のデニソワ原人の遺跡の中から、完全に歯がない女性の化石が見つかっています。この女性は、歯がない状態で何年も生きただけで死にます。他の動物では歯を失ったら食べるのができず、必然的に死を迎えることになりませんが、デニソワ原人の集団は、歯のない脆弱なおばあさんを助け、できるだけ長生きしてもらおうとした証拠だと考えられています。180万年も前に介護が行われていたなんて、凄くと思いませんか。

この記事の内容は、特異なものではありません。コロナ差別の背景にある多数派や主流派の集団の「空気」に従えという「同調圧力」や「世間」と呼ばれる日本特有のシステムについて考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

いづれにしても、世界のほとんどの国が、新型コロナウイルスの封じ込めを諦め、このウイルスと共存する道を選びました。かりに今回のパンデミックが終息しても、新たな未知の感染症が発生し、日常生活の背後に「人類レベルの危機」がいつ忍び寄るかわかりません。それゆえ、「国境を越えた連帯」を心の底から願ってやみません。